

芸術交流 阿吽の呼吸

仁王像タイル画 23日披露



学生に色のつけ方を指導するローヌンさん（左、奥出雲町で）

奥出雲町教育委員会などによると、仁王像は廃寺になつた岩屋寺の山門に1907年に購入し、現在は見75年頃まで安置されていたが、いつしか所在不明に

なった。オランダ・アムステルダム国立美術館が2007年に購入し、現在は見

その展示に魅了されたのが、アムステルダム在住のローヌンさんだつた。恐ろしい形相と柔らかな筋肉。自身が作る彫刻にも通じるものがあり、毎週通うように。

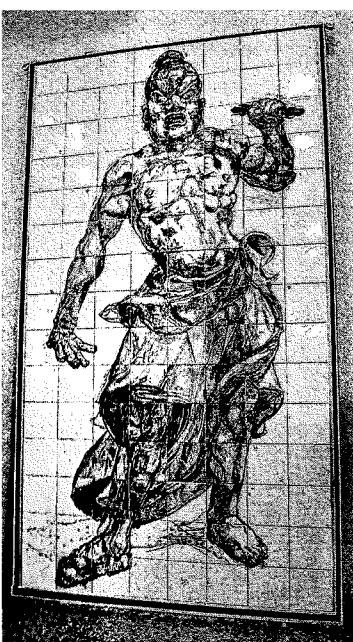
15年、京都に滞在した際、仁王像があつた寺を見たといと、奥出雲町を訪問。仁王像は、何世代にもわたつて横田に受け継がれてきたと住民から聞き、「何とかして仁王像を返したい。オランダと日本の文化を交流させて戻せないか」と考えた。

18年にプロジェクトを始動

日本では昨年から、細かい温度管理ができる電気窯を持つ島根リハビリテーション学院（奥出雲町三成）が焼成を担当する。今月15日には、ローヌンさんが同校

オランダ陶器の青日本でも焼成

奥出雲町の岩屋寺からオランダに渡つた仁王像をタイル画で表現しようと、オランダ人彫刻家のイエッケ・ファン・ローンさん（48）が日本とオランダ両国の住民とともに制作を進めている。タイル計500枚以上を組み合わせ、オランダの伝統的陶器に使われる青色で表現した「阿形像」「吽形像」はまもなく完成予定で、23日に同町内で披露される。（平野真由）



昨年完成した阿形像の正面図（奥出雲町で）

前10時、横田コミュニティセンターで行う予定。「アムステルダムの仁王像は、寸大でデッサン。その絵を下絵に、プロジェクトと共に感した町とオランダの住民が分担して15枚四方のタイルにすすぐで転写する。最終的には計500枚以上になる」という。

昨年は両国の大窯でそれぞれ焼き上げたタイルをつなげ、阿形像の正面図を完成させた。今秋は、阿形像の背面と、吽形像の両面を表現するタイル約400枚を制作している。

日本では昨年から、細かい温度管理ができる電気窯を持つ島根リハビリテーション学院（奥出雲町三成）が焼成を担当する。今月15日には、ローヌンさんが同校

を訪問し、作業療法学科の1年生約30人に、独特の青色を出すための絵付けを指導した。参加した川辺拓馬さん（19）は「国を超えてプロジェクトを実現できる力がすごい」と話した。完成作品の披露は23日午後1時、横田コミュニティセンターで行う予定。「アムステルダムの仁王像は、見るたびに違う表情を見せてくれる。今作っている仁王像のタイル画は完成した時、どんな顔になるか楽しむ」とローヌンさん。今も残っている岩屋寺の山門に作品を展示するのが夢だ。

ローヌンさんの滞在費やワーケーション費用を支援し、イベントの周知や場所の提供などもしてきた町文化協会の担当者は「プロジェクトを通して横田地区が活気づいた」と話す。参加者の中にはアムステルダムを訪れた人もいるといい、「完成して終わりでなく、作品を通してこれからも交わる」と期待していた。